



TITLE:

表紙 (泌尿器科紀要 第35巻第12号) 購読要項・投稿規定

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙 (泌尿器科紀要 第35巻第12号) 購読要項・投稿規定. 泌尿器科紀要
1989, 35(12): 2167-2168

ISSUE DATE:

1989-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/116766>

RIGHT:

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 35, No. 12 December 1989

泌尿器科紀要

第35巻 第12号 1989年12月

第38回 日本泌尿器科学会中部総会シンポジウム

- I 職業と尿路腫瘍**.....司会のことば 吉田 修...1995
世界と日本の職業性尿路腫瘍.....大野 良之...1997
職業性尿路腫瘍の背景と現況.....橘 政昭・ほか...2003
職業と尿路腫瘍 —その背景と臨床像—.....板谷 宏彬...2011
職業性尿路腫瘍：和歌山市における現況と臨床的検討.....森本 鎮義・ほか...2015
芳香族アミン化合物による尿路腫瘍.....内藤 誠二・熊澤 浄一...2023
職業性膀胱癌・スクリーニング開始後20年間における臨床成績とその意義.....松島 正浩...2033
自然発生ヒト膀胱癌における職業と喫煙.....西尾 恭規・ほか...2041
色素(染料)による膀胱腫瘍の発生.....宮川美栄子・吉田 修...2049
膀胱癌と職業に関する症例対照研究.....小幡 浩司・ほか...2057
癌原性化学物質暴露患者の診断上の問題点.....古武 敏彦...2063
- II 尿路結石症—その治療の変遷—**.....司会の言葉 津川 龍三...2069
手術的治療の変遷.....高羽 津・ほか...2071
内視鏡操作による上部尿路結石の治療.....平尾 佳彦・ほか...2077
尿路結石破砕法(特に微小発破について).....内田 睦...2087
Dornier Kidney Lithotripter HM3 を用いた ESWL山本 啓介・ほか...2093
第2世代機種を用いた ESWL について.....下 在和・ほか...2099
薬物を用いた尿路結石の再発予防について
—PNL および ESWL 症例の術後再発予防を中心に—.....安川 修...2107
上部尿路結石症の食事指導.....井口 正典・ほか...2115
尿路結石症—その治療の変遷— 特別発言.....園田 孝夫...2129

【症 例】

- 副腎腫瘍と考えられた有茎性肝細胞癌の1例.....吉村 一宏・ほか...2131
結節性硬化症に合併した腎細胞癌の1例.....安川 修・ほか...2135
小児睾丸 Leydig cell tumor の1例.....西野 昭夫・ほか...2139

【統 計】

- 大阪府立成人病センター泌尿器科における入院、手術統計
(1984年1月-1988年12月).....古武 敏彦・ほか...2145

【治 験】

- Ureaplasma urealyticum の尿路感染に対する ofloxacin の
効果について(英文).....河村 信夫・ほか...2149
複雑性尿路感染症に対する Aztreonam (AZT) の臨床的検討.....水谷修太郎・ほか...2155
急性膀胱炎に対する single dose chemotherapy の検討
—セフミノクス one shot 静注療法の影響について—.....胡口 正秀・ほか...2163
泌尿器科紀要第35巻総目次・物件索引・人名索引.....i~xxxxxxx

泌 尿 器 科 紀 要

Advisory Committee

阿 曾 佳 郎	熊 本 悦 明	園 田 孝 夫	田 崎 寛	前 川 正 信
町 田 豊 平	宮 崎 重			

Editor : 吉 田 修

Deputy Editor : 竹 内 秀 雄

Associate Editors

大 川 順 正	折 笠 精 一	熊 沢 淨 一	小 磯 謙 吉	友 吉 唯 夫
渡 辺 決				

Editorial Board

生 駒 文 彦	上 田 豊 史	碓 井 亜	大 江 宏	大 島 伸 一
大 島 博 幸	大 田 黒 和 生	大 野 良 之	大 森 弘 之	岡 隆 宏
岡 島 英 五 郎	岡 田 謙 一 郎	岡 田 裕 作	岡 本 重 禮	香 川 征
垣 添 忠 生	片 山 喬	加 藤 哲 郎	守 殿 貞 夫	河 合 恒 雄
河 田 幸 道	河 邊 香 月	川 村 寿 一	川 村 猛	桐 山 奮 夫
栗 田 孝	桑 原 正 明	郡 健 二 郎	古 武 敏 彦	小 松 洋 輔
小 柳 知 彦	近 藤 厚 生	酒 徳 治 三 郎	桜 井 勲	里 見 佳 昭
島 崎 淳	白 井 将 文	瀬 川 昭 夫	田 中 啓 幹	津 川 龍 三
土 田 正 義	東 間 紘	中 田 瑛 浩	名 出 頼 男	東 原 英 二
久 住 治 男	平 尾 佳 彦	三 品 輝 男	宮 川 美 栄 子	三 宅 弘 治
宮 崎 一 興	矢 谷 隆 一	八 竹 直	山 中 英 寿	山 辺 博 彦

Managing Editor : 松 田 公 志

Language Editor : 貝 原 純 子

Secretary : 太 田 賢

購 読 要 項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投 稿 規 定 (1989年3月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨症統計、そのほかで英文または和文とする。原著、症例報告、臨床統計などは、他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)までとする。
 - (3) 和文原稿はできるだけワープロを使用し、B5版用紙に20字×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。
 - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例：山田，ほか：前立腺癌・PSAP
 - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (6) 英文原稿はA4版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
3. 図(Fig.)、表(Table)は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
4. 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる(アルファベット順不可)。その数は30までとする。

例：山田^{1,3,7)}，田中ら^{8,11-13)}によると…

雑誌の場合—著者名(全員)：標題，雑誌名 巻：最初頁-最終頁，発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. J Urol 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄，上田 眞，野々村光生，飛田収一，大石賢二，東 義人，岡田裕作，川村寿一，吉田 修：経皮的腎砕石術(PNL)および経尿道的尿管砕石術(TUL)にみられる発熱について，泌尿紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名(全員)：標題，書名，編集者名，版数，巻数，引用頁，発行所，出版地，発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976

例 4) 大保直一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編，第1版，pp.259-301，南江堂，東京，1986

- (7) 原稿は，オリジナル1部とコピー2部（図，写真は3部ともオリジナル）を書留で送付する。万一にそなえて，コピーを手元に控えておくこと。

（原稿送付先）

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301 号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (8) 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。
- (9) 論文の訂正：査読審査の結果原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，編集部宛送付すること。なお，Editor の責任において多少字句の訂正をすることがある。
- (10) 校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
- (11) 投稿にあたっては，本誌を十分参考にして体裁を守ること。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。

迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。

- (2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
- (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については，掲載料を別途に申し受ける。

4. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer・PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

泌 尿 器 科 紀 要

第 35 卷

1989年

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 35

1989

編 集 委 員

石神 襄次 前川 正信 宮崎 重

新谷 浩 園田 孝夫 友吉 唯夫

吉田 修 (主幹)

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606

泌 尿 紀 要

Acta Urol. Jpn.